

2010 年度報告書（研究員）

氏 名	上尾真道
職 位	短時間研究員
<p>研究概要</p> <p>本年度、報告者は、近代における親密圏・公共圏の変容過程において、人間にとり最も親密なものたる「こころ」の管理やケアの領域である精神医学・精神療法が、いかに機能したかについての研究に従事した。そこでは、とりわけ二つの切り口から研究を遂行した。</p> <p>第一に、19世紀における市民社会の誕生に伴い整備されていく二つの精神医療空間、すなわち精神病院と民間精神療法との対立的発展過程を、階級的秩序や家族的再編成の問題との関連から検討を行った。また、こうした過程の理解の手掛かりのために、上記の展開が集約されていくひとつの理論的生産物として、19世紀の終わりに精神分析の創始者であるフロイトが提唱したエディプスコンプレクスの理論を取り上げた。核家族的親密性をすべての人間集団の基礎におくこの考えを、19世紀の親密圏・公共圏の変遷の歴史のうちに位置づけることによって、親密性と公共性のあいだで働く精神療法空間が果たす特殊性を明らかにした。この成果については第14回精神医学史学会で発表を行った。</p> <p>第二に、認識論のレベルにおける親密さの変容過程を跡付けるための理論的試みとして、近代における「フェティシズム」概念の系譜を整理し直した。フェティシズム概念は、民俗学的共同体の理解のためのものから出発し、19世紀半ばに、対象との性的な親密性を表現するものとして流布していく。その背景には、単一の性質をもつ普遍的人間性という、人間科学の成立に必要不可欠な発想が横たわっている。さらに精神分析による理解を通じて、フェティシズムの概念は、公共に開かれた意義と私的・親密的な意義との二重性を同時に併せ持つ、近代の現実性を表現するものとして考えられた。この成果については 3rd annual meeting of International Society for Psychoanalysis and Philosophy で発表を行った。</p>	
<p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「近代家族制度の観点からみたエディプスコンプレクス」 第14回精神医学史学会、A-3、宇都宮、2010年10月 ・“A Genealogy of the Concept of Fetishism and its Psychoanalytic Significance” <i>3rd annual meeting of International Society for Psychoanalysis and Philosophy, Sao Paulo, 2010/11/22-25</i> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「〈帝国〉のパラダイムにおける死の欲動について」 『ART CRITIQUE』、ART CRITIQUE 編集部、No. 1、pp. 139-150、2010年 	

